

# 大阪・関西万博 脱炭素ワーキンググループ 第1回資料

## 会期中の電気・ガス利用について

2022年7月28日  
公益社団法人  
2025年日本国際博覧会協会  
企画局持続可能性部

# 脱炭素WG 会期中の電気・ガス利用について

## 【博覧会協会案】

- エネルギー消費(電気・ガス)によるカーボンニュートラルを前提とすると、①、②
- 2050年に向けて、多様な電源を使用することを推奨する観点から、グリーンイノベーション基金の水素・アンモニア発電に係る実証の成果を見せることも重要視すると、②

	電気(電源構成)	ガス	CN	検討が必要な点
①	通常電源(指定なし)	通常ガス		
①	再エネのみ	CO2フリーガス	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CO2フリーガスとして、合成メタン製造(メタネーション)、クレジットによるオフセット等の制度活用</li> </ul>
②	再エネ+ゼロエミッション火力(水素・アンモニア等)+原子力	CO2フリーガス	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CO2フリー水素・アンモニアの2025年時点での確保量</li> <li>• ブルー水素・アンモニアの定義</li> <li>• CO2フリーガスとして、合成メタン製造(メタネーション)、クレジットによるオフセット等の制度活用</li> </ul>
参考	第6次エネルギー基本計画の2030年目標 (再エネ36-38%+水素・アンモニア1%+原子力 20-22%+LNG20%+石炭19%+石油等2%) ・2050年参考値:約50~60%を太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス等の再生可能エネルギー、水素・燃料アンモニア発電を約10%、原子力・CO2回収前提の火力発電を約30~40%	第6次エネルギー基本計画の2030年目標 (既存インフラに合成メタンを1%注入、その他の手段(*)と合わせて5%のガスのカーボンニュートラル化) ・2050年参考値:既存インフラに合成メタンを90%注入、その他の手段(*)と合わせてガスのカーボンニュートラル化 ※水素、バイオガス、クレジットでオフセットされたLNG、CCUS等		